

令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 ティーチング・ポートフォリオ

記入日	年度当初 7月 1日 / 年度末 2月 27日
氏名	平井 敏孝
子ども学科	教授
学科以外の兼務職	学生サポートセンター長

ティーチング・ポートフォリオとは、責務、理念、方法、成果、目標の5つの要素を含む教育研究業績について記録した資料です。年度当初に責務と理念を記入し、年度末に方法、成果、目標を記入します。本学では自己点検も兼ねています。

ティーチング・ポートフォリオは、本学の全専任教員が記入後、所属学科長に提出することとします。その後、学科長、学長等にてティーチング・ポートフォリオの内容の把握を行い、教育課程における教育力の質の向上に活用します。その際、自己点検・評価委員会やFD委員会等の関連する委員会や部署と連携することとします。

各教員が記入したティーチング・ポートフォリオは本学ホームページにて3年間公表します。

1. 責務 (何を行っているのか)

①担当科目

担当科目名	学科	学年
基礎力プログラム I (初年次教育)	子ども	1
教育制度論	子ども	1
教育実習指導 (小)	子ども	1
教育実習指導 (小)	子ども	2
理科教育法	子ども	1
生活科概論	子ども	2
生活科教育法	子ども	2
教育とICT活用	子ども	2

②担任制度

担任 (1年生)	有	担任 (2年生)	有
----------	---	----------	---

③委員会活動

委員会名	役職	所属	備考
運営協議会	委員	SD委員会	
研究倫理委員会	委員	地域連携委員会	
危機管理委員会	委員	入学者選抜委員会	
自己点検・評価委員会		広報委員会	
認証評価準備委員会		高大接続・連携委員会	
図書委員会		保育・教育実習運営委員会	副委員長
学生委員会	委員長	ハラスメント防止委員会	
障害学生支援・学生サポートセンター運営 WG	センター長	教員資格審査委員会	委員
キャリア支援委員会		教員採用選考委員会	委員
教務委員会	副委員長	湖国カルチャーセンター運営委員会	
FD委員会		授業料等減免者審査委員会	
奨学生奨学金審査委員会		紀要編集委員会	
学生調査委員会		教職実践演習運営委員会	
教学調査委員会		学長推薦選考委員会	委員
不正調査委員会		衛生委員会	

④実習業務

保育実習部会長		小学校部会長	○
幼稚園実習部会長		子ども学科 実習事務	

⑤びわ湖東北部地域連携協議会

\* 文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3 地域社会への貢献プラットフォーム型

協議会名	所属	代表
協議会会員	WG-A (産業振興に向けた産官学連携事業)	学内代表
協議会事務局	WG-B (地域コミュニティの活性化事業)	学内代表
WG-D (事業管理) 学内代表	WG-C (地域を担う次世代人材の育成)	学内代表

## ⑥外部資金獲得に伴う研究活動

外部資金獲得	有 ・ 無
助成者	
資金名	
研究種目	
期間	
助成金額（期間中合計）	
研究課題	
備考（分担者等）	

## 2. 理念（どのような考えに基づいて行っているのか）

教育理念	学園創設者松本富士之助「教育は人にあり、国家の未来は教育にかかっている。教育の向上には、まず、教育者の養成が重要である」
建学の精神	「知育」・「徳育」・「体育」の鼎立と調和の取れた人間形成
学科の教育理念・目標	【子ども学科】 幅広い知見と豊かな教養を備え、子どもに関わる専門的な知識・技能と実践力を修得し、向上心や探究心をもって保育・教育の分野に広く携わることのできる人材の育成
個人の教育理念・目標	各講義において、学生が「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう、学生の資質や能力に合わせた言語活動や観察・実験、問題解決的な学習活動を工夫する。少人数の場では、体験活動と言語活動を重視し、多人数の場では、グループなどで対話する場面や学習を繰り返す場面を継続的に行い、主体的に学ぶことの楽しさと充実感を実感させる。また、教員からの評価の場をできるかぎりとするようにし、成長を実感させるとともに、課題や次回の目標を明確にさせていきたい。 学生サポートセンター長として、関係職員間での連携や情報共有を密に行うこと、学生へのサポートについては、関係課・各学科の先生方との連携を図り、効果的に関わられるようにすることを重点として取り組んでいく。

## 3. 方法（その考えをどうやって実現しているか）

授業	本年度も、どの授業においても、演習や問題解決的な学習の場を多く取り入れることができた。具体的には、グループでの活動や協議、交流の時間を、90分の授業の中に意図的に組み入れ、存在感や授業への参加意識が持てるようにし、主体的に学ぶことの楽しさを実感させるように努めた。 小学校教諭養成コースの学生は少人数であることから、個々人との対話を重視し、それぞれの課題や目標にあった内容や学校現場に直結した内容を準備し体験的な学習を進めるよう工夫した。
授業以外（学生支援等）	学生委員会委員長・学生サポートセンターの長として、各会議を1回ずつ開催し、情報交換や個別の対応についての協議の充実を図った。また、運営協議会等での報告や関係課と連携を図り、情報の共有や迅速な対応ができる組織になるよう努めた。 また、小学校教員養成課程の学生については、地元の学校への就職について関係機関との連携を図りながら進めている。

## 4. 成果（その方法を行った結果、どうだったか）

授業	話し合い活動やグループ活動に意欲的に取り組める姿勢を育てることを目標にし、授業開始当初から積極的にグループワークや話し合い活動、全体での表現活動を取り入れるようにし、それぞれの場面で、具体的な評価を示し、より高い目標を持たせるように努めてきた。 結果としては、話し合い活動の進め方だけではなく、限られた時間内での発表の仕方や、わかりやすい表現方法等、回を重ねる中で成長を感じる姿が見られるようになった。 学生からは、自らの成長を感じるという内容や、話し合い活動への苦手意識が薄らいだといった感想が寄せられ、個人差はあるが、大学での学びに少し自信が持てたように感じた。今後は、こうしたアクティブラーニングを主に置きながら、必要な知識を丁寧に伝え、それらを活用していける力を育てること、また、系統的にこうした学びをつなげていくことが大切と感じたところである。
授業以外（学生支援等）	学生委員会・学生サポートセンターの運営においては、学生の情報の共有が何よりも大切であり、その後の早い対応や指示が求められていると考えている。本年度については、合理

	的配慮が 必要と思われる学生が在籍していたこともあり、具体的な対応について協議を行い、より望ましい進路決定へと導くことができた。
--	--

## 5. 目標 (今後どうするか)

授業	<p>模擬授業等を行う授業については、少人数の授業であることから、計画の段階できめ細かな指導を行い、様々な考えに触れさせるようにし、模擬授業やその後の研究協議において学生の交流が活発化するよう心がけていきたい。</p> <p>多人数の授業においては、引き続き90分の中に交流や学生間で学びあう場を設定し、様々な人との意見交流を経験させることを大切にしたい。その上で、多様な考えや技術を身に付け、学びを実感させていきたい。また、発表や表現活動に対しては、指導者側が適切な評価を伝えることで、次の目標を持たせるとともに、主体性を伸ばしていきたい。</p>
授業以外 (学生支援等)	<p>学ぶことが楽しいと実感し、主体的に学ぶ学生の育成には、何よりも本人の学ぶ意欲や資格を取る、卒業をするといった強い意志が必要である。こうした気持ちは入学後においても育てていくことが重要であり、面談や普段の生活の中での交流において、職員の共通理解を図るとともに、個々への声かけや支援の充実に努めていきたい。</p> <p>このことは、学生支援の場においても重要であり、共有した事柄や情報については、本人の了解のもと関係者と共有するなどして、支援を求める学生の学ぶ意欲の向上に寄与していきたい。</p>

## 6. 記載内容に関する根拠資料

- ①令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 シラバス
- ②令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 科目別成績分布状況
- ③令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 担任一覧表
- ④令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 委員会構成名簿
- ⑤令和7(2025)年度 滋賀文教短期大学 組織図

以上